



## 国際がん登録学会 2010 年次大会 (IACR 2010) の日本誘致について

岡本 直幸

地域がん登録全国協議会理事長

日頃より地域がん登録全国協議会へのご協力・ご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。本協議会も 1992 年の設立以来はや 15 年が経過し、先輩諸兄姉の地道な活動の積み重ねによって少しずつ「地域がん登録」が市民権を得つつあるように思われます。また、がん医療の均てん化政策やがん対策基本法に代表されますように、「地域がん登録」自体が脚光を浴びる状況となってきましたことは、喜ばしさとともに改めて襟を正さねばならないと再認識しております。

このようなわが国のがん対策の大きなうねりの中、昨年 (2007 年) の 9 月 18-20 日にスロベニアの首都リュブリャナでの第 29 回国際がん登録学会 (IACR2007) におきまして、2010 年の第 32 回の開催候補地として日本が選ばれました。第 30 回はオーストラリア、第 31 回は米国が予定されています。この国際学会は五大大陸を順に回っており、最近のアジア地域は 2004 年に中国で第 26 回の大会が開催されました。

わが国が指名された経緯ですが、IACR2007 前に IACR アジア地区代表の早田理事のもとへ理事会の案内と議事予定が配布され、「2010 年のアジア開催の候補地として韓国、日本がノミネートされている」ということをお聞きし、IACR2007 へ参加予定の有志によって、急遽、日本誘致の資料が作成されました。この段階で、日本での開催は 1984 年の福岡での第 6 回大会 (会長: 重松峻夫先生) に引き続き 2 回目であるので、もし韓国が立候補するようであれば日本は降りる旨を確認してスロベニアへ参りました。ところが、韓国からの立候補は無く、日本でのみの立候補で、誘致の資料 (国がんの松田智大先生、丸亀知美先生が準備) が十分であり、松田先生のプレゼンテーションが素晴らしかったこともあったのかすんなりと日本での開催が決まってしまいました。決まった以上は協力して頑張ろう、というのが IACR2007 へ参加し

賛助団体 (2008 年 2 月 1 日現在 22 団体 敬称略、順不同)

- |                  |               |
|------------------|---------------|
| (財)日本対がん協会       | (財)大阪対ガン協会    |
| 明治安田生命保険相互会社     | 第一生命保険相互会社    |
| アメリカンファミリー生命保険会社 |               |
| (財)大同生命厚生事業団     | 日本生命保険相互会社    |
| 三共株式会社           | アストラゼネカ株式会社   |
| 富士レビオ株式会社        | 大鵬薬品工業株式会社    |
| 伏見製薬株式会社         | 堀井薬品工業株式会社    |
| ワイズ株式会社          | シェリング・プラウ株式会社 |
| 大塚製薬株式会社         | 株式会社ヤクルト本社    |
| 中外製薬株式会社 (本社)    | 大日本住友製薬株式会社   |
| ノバルティスファーマ株式会社   |               |
| グラクソ・スミスクライン株式会社 |               |
| 株式会社ウイッツ         |               |

た皆様の気持ちでしたが (既に数人の先生方に指摘を受けていましたが)、何処の誰がこの国際がん登録学会を、責任を持って受託するのが議論されていませんでした。協議会が受け皿になれば良い、とのご意見もありましたが、協議会は実体がなく不安定であるというご指摘も受け、大いに悩まされました。

幸い、IACR2010 の組織委員長を祖父江友孝先生が、事務局を味木和喜子先生、松田智大先生、丸亀知美先生がお引き受け下さることとなり、確固とした受け皿が整いました。また、学会長は、IACR の事情に詳しい元顧問の藤本伊三郎先生、顧問の花井彩先生、大島明先生、理事の早田みどり先生、事務局の皆様のご意見をお伺いし、この国際学会はわが国の地域がん登録の今後の流れを決めかねないほど重要であるという認識と、厚生労働省の関与を期待するという観点から、祖父江先生の並々ならぬご尽力によって国立がんセンター総長であるとともに、本協議会の顧問をお願いしている廣橋説雄先生が第 32 回の会長をお引き受けくださることになりました。

目 次	
IACR2010 日本誘致 .....	1 高野昭先生を偲んで..... 7
賛助団体紹介.....	1 第 29 回 IACR に参加して... 8
IACR 福岡の反省.....	2 第 16 回総会研究会報告..... 10
5 大陸のがん罹患 9 巻.....	3 第 17 回総会研究会案内..... 11
事務局報告.....	5 編集後記 .....
登録室便り (岩手) .....	6 関連学会一覧..... 12

新年早々に組織委員会が立ち上げられ、本協議会の会員や理事の先生方が各委員会の構成委員として活動されると思います。よろしくご協力下さい。会場は事務局と厚生労働省から近い東京近辺、開催日は9月の残暑を避けた10月初～中旬が予定されています。

この国際がん登録学会は、日本での第1回目の当時とは異なり、地域がん登録の必要性が一般の方々にも注目されつつあることから、準備期間2年半という時間と2010年の開催年は、私ども地域がん登録関係者にとっては大変重要な時期であり、意義のある学会にする必要があります。このような意味でも、会員諸兄弟や理事の皆様のご協力を切にお願いする次第です。

## IACR 第6回総会（1984年）の概要と反省 —第32回総会に備えて#

藤本 伊三郎

### はじめに

第32回IACR（国際がん登録学会）総会を2010年（平成22年）に日本で開くようIACR理事会で要請されたと聞き、1984年（昭和54年）福岡市で第6回IACR総会を開いた時の苦汁の経験を思い出し、「前車の轍を踏まない」よう、第6回の記録を残すことにした。会長（重松峻夫当時福岡大教授）が既に亡くなっているため、花井彩博士\*保管の資料を基礎とし、藤本と花井博士との記憶に頼って、本文を作成した。

### 第6回IACR総会（1984年）の概要

#### 1. 開催年、場所、関係団体、委員会など

IACR第6回総会は、1984年9月27～29日に、福岡市ガーデンパレス（ホテル）で開催された。

会長は重松峻夫教授、後援団体は厚生省、福岡県、福岡県医師会、福岡市（政令市）、福岡市医師会、福岡対がん協会、実施面では福岡大学、産医大、佐賀大、関連学会（後述）などであるが、その他に、厚生省がん研究費による「地域がん登録研究班」が大きな役

割を果たした。また、組織委員会、開催地組織委員会を立ち上げ、顧問、事務局など体制を整えた。

#### 2. 総会のプログラム

当時既に日本では、地域がん登録研究班が、精度の高い登録のデータを基礎としてがん罹患数・率の全国推計および将来推計方式を作り上げ、毎年公表していた。また、登録データを用いて、病理疫学研究、がん検診の精度管理および評価、などの研究も開始されていた。これらを日本で開かれる総会にて報告するべく、総会の第1主題は「地域がん登録資料の多面的利用と、その時の問題点」とし、第2主題には、「各国における地域がん登録の現況」をとりあげた。

#### 3. 参加人員数

総会には計172人（海外43、国内129）の参加を得た。国内外から多くの人に参加してもらうため、総会の公用語は日本語または英語とし、同時通訳を採用した。講演者には、翻訳者のために事前に、抄録とともに全文（和または英文）を提出してもらうように依頼した。

#### 4. 同時通訳方式

第6回総会で同時通訳方式を採用し、イヤホンは希望者全員に配布することにしたが、当時は、総会会場にそのための設備がなく、また、3日間にわたって同時通訳を受託しうる業者も福岡周辺にはなく、結局、通訳放送設備と通訳者とは大阪の業者と契約した。そのため経費は相当高くなり、演者にも前述のように演説原稿の事前提出を依頼することになった。

#### 5. 冊子の配布

IACR総会では、開催国の地域がん登録制度の概況、その成績などをまとめた資料を、総会参加者に配布する機会が多い。わが国では、既述のように「地域がん登録」研究班が全国がん罹患数・率を推計していたので、この研究班が「Cancer incidence in Japan, 1975-1979, written by Fukuma, Hanai et al」を冊子として作成し、総会参加者全員に配布した。

#### 6. 総会事務局

総会開催までは、福岡大公衆衛生学教室に事務局を置き、総会開催中はホテル・ガーデンパレス内に移動

# : (編集: 西信雄) 著者の許可をえて元原稿を事務局で短くした。全文は <http://www.cancerinfo.jp/jacr/shiryo.html> に掲載した。

\* : 当時大阪府がん登録室長、後にIACRアジア地域代表理事、IACR事務局長、地域がん登録全国協議会事務局長、同顧問を歴任。